

## 第 56 回愛媛県高等学校教育研究大会情報部会記録

司 会 今 治 西 高 等 学 校 教 頭 山 本 公 治  
進 行 東 温 高 等 学 校 教 諭 中 西 薫  
記 録 南 宇 和 高 等 学 校 教 諭 新 海 孝 則

開会挨拶（今治北高等学校 校長 石川達也）

今日は冬至で、1年で最も昼の時間が短い日である。今年は大変温かく過ごしやすい冬であるが、特に本日は朝から気温が高く、目覚めやすい朝であった。

年の瀬が押し迫った中、第 56 回愛媛県高等学校教育研究大会情報部会にご出席いただき、ありがたい。先生方はそれぞれの専門教科と併せて、教科「情報」の担当者として本県の情報教育の推進にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。

高教研の情報部会の研究大会は、本年度 12 回目を迎えた。研究主題は、一昨年度より 3 年間「情報技術の進展に主体的に対応し、情報発信できる能力・態度の育成」ということで固定している。本日は、内子高校の河野薫先生、三間高校の夏秋従治先生、今治西高校の渡邊一郎先生、3 人の先生から研究発表がある。また、研究委員会の先生方からは、研究成果の報告もある。さらに、午後には学校法人河原学園 河原電子ビジネス専門学校教頭の神馬一博様に「学びの場における情報通信技術の活用」という演題で、ご講演をいただく予定である。

さて、文部科学省では、現在「高大接続システム改革会議」において、大学入試センター試験に代わるテストとして、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入を目指している。そのテストの実施科目として、平成 36 年度の入試以降については、教科「情報」に関する出題科目の設定を検討している。

このように情報教育は今後も広がりを見せる分野であり、教育現場でどのように取り扱っていくか、引き続き研究協議・情報交換が必要だと感じている。

こうした状況の中、本日の研究大会を通して、教科「情報」の充実・発展に向けて切磋琢磨できる機会が持てることを喜びたい。

最後になるが、愛媛県教育委員会指導主事 白方良憲先生、愛媛県総合教育センター指導主事 野村竜也先生には、ご多用中にもかかわらずご出席いただき、幅広い視野でのご指導・ご教示を賜りますことを感謝申し上げます。

それでは今日一日、よろしくお願ひしたい。

教育委員会挨拶（愛媛県教育委員会高校教育課 指導主事 白方良憲）

愛媛県教育委員会より一言ご挨拶を申し上げます。本日、県下各地より多数の先生方にご出席いただき、厚くお礼を申し上げます。また、近藤会長様をはじめ、会場校の東温高校、関係の皆様におかれましては、本日の会に向け早くから準備、計画等進めていただき、深く感謝する。

さて、共通教科情報について、「社会と情報」「情報の科学」の二本立てとなっている現行の学習指導要領がようやく折り返しに手が届きそうな段階であるが、文科省では平成 34 年度から学年進行で実施の次期学習指導要領に向けての準備が進められている。二年前の平成 26 年 11 月の諮問を受けて、本年度中にその答申が出されることとなっている。この次期学習指導要領では、情報の二つの科目が一本化され、必修の科目として全員が同じ科目を学習するが、内容的には情報の科学的な理解を重視する方向にある。これは現行の教科情報において、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではないのではないか、また、「情報の科学」を履修する生徒の割合が全国的に約 2 割、これは本県も同じ傾向にあ

り、情報やコンピュータに興味・関心を有する生徒の学習意欲に必ずしも応えられていないのではないかという課題に立ったものである。文系理系に関係なく、また卒業後の進路を問わず情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが重要であるという考えからきている。この情報活用能力には、言語能力と同様に教科の枠を超えて全ての学習の基盤として育まれ活用される力と位置付けられている。この力にはプログラミング的思考やICTを活用する力が含まれており、特にプログラミングについては、小学校において必修化、中学校の技術家庭科においてはさらに充実、高校の情報科においては共通必修の科目化が示された。このことは産業界においても大いに注目を集めている。

また、学習指導要領では「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点が重視されているが、特に「どのように学ぶか」についてはICTの特性や強みがアクティブ・ラーニングの視点に立った「主体的な学び、対話的な学び、深い学び」の実現に大きく貢献することが期待されている。教科情報で育成する情報活用能力が学習の基盤として、個人の基礎的な資質として、読み書き、そろばんに並ぶ基礎基本として位置づけられているということで、教育課程の中で教科情報の果たす役割は非常に大きいのではないかと考えている。

本日の研究発表ではプログラミング、アクティブ・ラーニングなどの発表があると聞いており大変楽しみにしている。また午後からは、河原電子ビジネス専門学校神馬先生のご講演が予定されており、今後の授業に大いに参考になるのではないかと考えている。それでは本日の会が先生方のご協力の下で充実した会となりますことを祈念いたしまして、簡単ではありますが開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### 研究協議

○ 内子高校の発表について、学校訪問でこの授業を拝見した。最初に生徒が授業の前に、チャイムが鳴る前からタイピングの練習を当たり前のように席についてやり始めており、こうした習慣が身につけているのがよくわかった。メーカーを使わない電子メールの授業であったが、言われていたように時間がかかり、意外と生徒が戸惑っていた。次の授業で細かに指導されるといわれており、情報モラルの指導例として勉強させていただいた。  
(大洲高等学校 教諭 鶴久森 晃)

・ メールの実習をしている学校があれば指導例について簡単に教えていただきたい。

○ 宇和高校ではWindowsメールを使って実際にメールの指導を行っている。ヘッダーの確認やCc、Bccの使い方などを中心に行っており、メールのメカニズムも理解させて実習中心で行っている。  
(宇和高等学校 教諭 伊関 敏之)

○ メール指導について、二年ほど前から課題研究として一年生にメールアドレスをセンターからいただき、Outlookで設定をしてメールのやり取りをさせるという指導は過去にしたことがある。  
(松山東高等学校 教諭 松田 智也)

・ VBAを用いて何らかの形で授業を実践している学校に、指導の感想など聞かせていただきたい。

○ 以前まではフローチャートを起こし、プログラムを書いて、一学期間かけてプログラムを指導していた。今年度は教科を「社会と情報」に変えて、簡単な順次選択繰り返しぐらいのフローチャート、流れ図を作り、生徒に打たせて実際に動かすということしか行っていない。  
(三島高等学校 教諭 近藤 洋正)

- 以前に勤めていた今治北高等学校、それから本校で古田先生と取り組んだ事例を紹介する。VBAを使った簡単なプログラム、数当てゲームを打たせる指導をしたが、生徒たちが一番困っていたのは半角で文字を入力するということであった。情報をやっている人間からすると当たり前の感覚が、どうも理解しづらい生徒がいた。私から紹介したいのがドリトルというプログラミング言語である。J A V Aで動くのでどのコンピュータでも簡単に動くと思う。日本語で記述、指定でき、初歩の初歩かもしれないが使い勝手は良いと思う。これの良いところが、実はオブジェクト指向なのでワンステップ上のこともできる。欠点としてはBASICに近い言語ではないので、教える側も多少の苦労があると思う。ただWEBサイトにすべて説明書きやコードも書いてあるので、参考にさせていただきたい。当校の前期の先生に紹介すると講評で、前期の技術家庭科のプログラミングで指導してもらっている。

(今治東中等教育学校 教諭 毛利有伸)

- アクティブ・ラーニングの実践事例として、大洲高校も拠点校で、今年学校訪問があったので自身の取組を踏まえて紹介する。発表の中で「何がアクティブ・ラーニングか」がわからないという意見があったが、私も同様にそこから考えた。とにかくグループ学習をすればアクティブ・ラーニングというわけではないということで、大洲高校ではプレゼンを選んだ。学校訪問では藤樹祭（大洲高校の体育祭と文化祭）のプランを立てるところを見ていただいた。生徒たちは良い意味で私の予想を裏切ってくれて、生徒たちはそれぞれに工夫をして良い発表をした。相互評価も行ったが、他の人の発表を見たり、自分たちも工夫をしたりと、こうしたことがアクティブ・ラーニングには大事なのかというふう感じた。

(大洲高等学校 教諭 鵜久森 晃)

- 新田高校でもTwitterやFacebookなどの問題がここ1,2年で急速に増えており、新田高校は一年生のうちに「社会と情報」を全クラスで実施するが、その中で「載せる写真は気をつけなければいけない」という指導はしていたつもりであるが、やはり学校としても本格的に対処方法を考えなければならないと思っているところである。効果的な方法や実践されていることなど教えていただけたらと思う。

(新田高等学校 教諭 東條 雄一)

- ・ 各学校で少しずつ工夫しながら、実践されていることと思う。過去に、生きていくうえで大事な教科は家庭科と保健と言った先生がおられた。そうだなと思ったが次にくるのが情報ではないかと思っている。人を傷つけないことについては、しっかり情報の立場でも指導できれば良いと感じている。

指導助言（三瓶高等学校 教頭 菊地英明）

これだけスマートフォンやSNSが普及している中で、これからの情報教育に取り組みにくいこともあると思う。その背景の一つとして、情報技術がブラックボックス化しているのではないかと思う。スマートに操作し、誰かとつながりたいというところで活用していると思うが、Web社会を支えている情報技術に関する知識への理解が十分でないために、多くの人が見ている公衆の面前にプライベートな情報をさらけ出してしまうようなことになっていると思う。河野先生の発表にもあったが、生徒たちから情報機器を取り上げることは絶対ありえないことなので、正確な知識をこれからも教えていかなければいけないと考えている。その知識も、どのように活用すれば事故にあわないかということを考えさせ、判断させて共有させたいと思っている、また夏秋先生の発表であるが、紙面を見ただけでも、細かい、生徒の実態に応じた段階的な指導になっていたと思う。県総合教育センターの野村先生の出張講義に始まり、非常に細かく指導されている様子が生徒たちの感想からも読み取れた。その中の携帯電話やインタ

ーネットのルールでは、地域の方々や保護者の方々としっかり社会の中で繋がれるようにということで、決して教科書や授業の中だけではない非常に説得力のある内容だったと思っている。生徒たちが作ったルールも詳しくあり、利用料金や期間、SNS への書き込みについてという実際の状況や場面に合わせて生徒にしっかりと考えさせて作られていたと思う。また参考文献の中には人権教育指導資料等も使われており、非常に幅広い資料が使われていた。紙面だけを見ても伝わってくる情報だったと思う。私も今後大いに参考にさせていただきたい。続いて渡邊先生の研究で色々なプログラミング言語等についてご紹介いただいたが、小中学校段階でどのようなことを学んでいるかによってはVBAが難しい学校もあるかと思う。その中でスクラッチやドリトルなど使ってプログラミングの考え方を身に付けさせるというものもあるかと思う。渡邊先生の最後のまとめにもあったが、小中でどのようなことをやってきて情報にどのようなことが今後求められてくるかということ、これらをまた情報が入ったらお教えいただきたらと思う。その中で、アンプラグドコンピュータサイエンスというが、コンピュータを使わない段階でしっかり指導しておかないと、実習が作業になってしまう。その意味で興味ある題材を用いて渡邊先生は指導されたのではないかと思う。答えを疑うというのがありましたけれども、プログラミング、コーディングを完成させることが目的ではない。何が評価の観点なのかなという意味で、たとえばルーブリック評価のような導入がアクティブ・ラーニングの観点からは重要視されてくるのではなかろうかと思う。プログラミングという意味では、考え方を知るというという意味ではDVDのオーサリングをさせるほうが生徒は興味を持ってプログラミングの考え方がわかるのではないかという気もした。研究委員の先生方も結局同じような話になってくるがプログラミングの学習に向けて、現時点でできることについて自己研鑽していくという表現があったと思う。これが非常に大切なことである。高橋メソッドもやってみたら結構気楽で良いと思うが、見られた方もいろいろ感想を持ったと思う。とりあえずやってみようというのがキーワードかと思う。アクティブ・ラーニングを踏まえた事例についても、教員がスキルを磨かなければならないとあった、今回の研究委員会の皆様の研究から、アクティブ・ラーニングの手法を学ばせるためにアクティブ・ラーニングの授業を用いているという感想を持った。大変苦勞されたと思う。しかしその結果、非常に中身のある研究となったのではないか。司会者が言うように、教科情報は非常に大事な部分があるかと思うが、アクティブ・ラーニングの面でもコンピュータを使うという意味ではなく、考え方の意味で中核をなす大事な教科であると思う、

指導講評（愛媛県総合教育センター 指導主事 野村竜也）

3名の先生方のご発表、それから研究委員会の先生方のご発表は、非常に有意義なものになった。3名の先生方のご発表の内容は、情報教育の目標である、情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の各項目に合った内容であった。内子高校河野先生の『『社会と情報』メーカーを使わない電子メールの指導例』は、発表の最初にあるタイピング指導が情報活用の実践力を重視した内容であった。振り返れば、教科情報が始まった十数年前は、まずコンピュータに慣れるということからの授業であった。現在でもタイピング指導は重要視されているので、原点に返った指導法だと思う。メール指導について、現在SNSが主流となっているが、まだ現在の社会ではメーカーは重要であり、高校生段階で正しい指導をする必要がある。この指導については、高校の教科情報がかなり重要であろうと思われる。河野先生の発表は、情報活用の実践力が中心であるが、メールの仕組みを理解する指導では情報の科学的な理解の内容を、チェーンメールの体験では情報社会に参画する態度の内容も含まれているので、バランスがとれていた。

現行の学習指導要領では情報モラル指導が重視され、情報社会に参画する態度に重きを置かれているような印象を受ける。三間高校夏秋先生の「情報モラルの指導～携帯電話等やインターネットの安全利用～」は、この内容を中心としたご発表であった。SNSでの影の部分については、当然授業の中で指

導をしなければならない。教科情報での内容になるが、現状の方針では、すべての教科でモラル指導をすることになっているので、あらゆる場で情報教育を進めていただきたい。その上で、教科情報の先生はこの分野の中心的存在になるので、学校の情報モラル指導を引っ張っていただきたい。同時に、影の部分だけが一人歩きせず、光の部分についても指導していただきたい。さらに、この件については、地域との連携も重要である。現在、各自治体単位で携帯電話使用に関する統一ルールを作っているところが増えている。そのルールの下で育ってきた小中学生が高校に入学してくる。どのようなルールを学んできているかは、高校での授業の指導にも役立つと思う。各自治体の統一ルールをご研究いただきたい。

今治西高校の渡邊先生の「Excel-VBA を用いたプログラミング指導事例」は、言うまでもなく情報の科学的な理解に関する指導が主であった。これは、次期学習指導要領も意識された内容であろうかと思う。情報の科学の履修生徒が少ない現状において、非常に貴重な資料であった。研究委員会の発表にもプログラミングに関するものがあり、注目されている。有識者会議での発言からは、プログラミング教育は、プログラミング的思考を養うことに重きを置かれている印象を受ける。プログラミングはいわゆるコーディングだというイメージがあったが、プログラミング指導は必ずしもコーディング指導ではないということである。特に小学校の段階では、プログラミング的思考を養うことが重要であり、ブロックを使ったプログラミング指導が行われるようである。これらを対象としたプログラミングアプリもたくさんあるので、高等学校の先生も触ってみてはいかがだろうか。また中学校では、技術科のプログラムによる計測と制御の単元でプログラミング指導をしている。これらの内容もアプリ上、ウェブ上で実体験できるので、先生方が現状を把握し、高等学校の指導内容を検討するのがよい。

研究委員会の発表について、情報の科学の指導内容として Excel の操作の発表があった。Excel 指導を深い内容まで行われていない学校が多いようだが、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れていけば、Excel のスキルはまだまだ伸ばせるのではないかと思う。私は、みんなで同じものを順番に作り上げて一時間で同じものを完成させる授業をよくしてきたが、アクティブ・ラーニングを取り入れると、さらに踏みこんで、同じゴールであっても様々な方法があり、それらを生徒同士で伝えあうことができる。アクティブ・ラーニングの方式につきましては、小田先生が紹介しているように全員が達成することを目指す方法もあるし、渡邊先生の発表のように数人のグループで様々な方法を考え、よりよい方法を見つけていくといった方法もある。とにかく教師からの一方通行にならず、双方向型の学習を増やすことが目的の一つである。愛媛の先生方の中には、常にアクティブ・ラーニングの要素を意識して授業を実践している方も多いためと思われるので、今持っている技術をさらに磨いていただき、今後も研究を続けていただきたい。

最後に、総合教育センターから伝えさせていただきたい。まず、学校ホームページについて、他県では地図を無断利用しているという事例がある。地図サイトの地図をそのまま使わないように願います。オリジナルで書いた地図であれば、著作権は問題ない。地図サイトの地図を使う場合は、埋め込み式なら使用ができる。画面キャプチャをして使うことはできないので、使う場合は埋め込みで使っていただきたい。なお、埋め込み方法については総合教育センターのホームページにQ&Aの形で掲載してあるので、ご覧いただくか情報教育室までご相談いただきたい。次に、教育センターでは悉皆の基礎研修のほかに希望参加で行う課題別研修を実施している。今年度は全部で 59 講座、述べ 1229 名の先生方に受講していただいた。県立学校も 200 名の先生方に受講していただいた。来年度は、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善など様々な教育課題に対応した研修を開設している。出前講座について、教育センターでは、学校からの要望に応じて、指導主事が学校に出向く、出前講座を行っている。今年度は全 50 講座あり、県立学校からはこれまで 37 校申し込みがあった。これらの課題別研修、出前講座については、3 月末にホームページに掲載し、その後、研修講座案内を電子メールで送信する。ご活用いただきたい。学校ホームページについては、2 月の本センターでの調査研究発表会において X00PS から

NetCommons へ切り替えていく旨の発表を予定している。来年度、ESnet の更新が近づいており、新しいシステムによる研究を進めている。新システムでは、スマホからホームページがあげられるようになる。ぜひご活用いただければと思う。

指導連絡（愛媛県教育委員会高校教育課 指導主事 白方良憲）

本日は4本の研究発表、研究報告、研究協議をいただき感謝申し上げます。おかげで、有意義な会になったことをお礼申し上げます。あと少しで終了時刻を迎えるわけであるが、しばらくお時間をいただき、9点ほどご連絡をさせていただく。

#### 1 学校訪問研修等について

今年度、学校訪問研修8校、授業公開日に訪問させていただいた2校など関係学校には大変お世話になった。主体的・対話的で深い学び、いわゆるアクティブ・ラーニングや、ICTを活用した授業など、新しい時代に対応した取組を積極的に公開していただき、有意義な研修となった。また6月には西条高校で高教研情報部会の総会並びに研究協議会が開催された。研究授業では石川先生にご担当いただき、非常に盛況であった。会場校の先生方をはじめご参加いただいた多数の先生方、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

#### 2 学校評価について

学習評価は学習指導要領に示されている内容が生徒一人一人に確実に身につけているかどうか適切に判断し、適切に評価することでその後の学習活動に生かされるものでなければならないというふうを考えている。年間指導計画やシラバスに単元ごとの評価の観点を記載した上で、引き続き学習指導要領に示された目標に準拠した評価を行い、指導の改善に生かしていただきたい。また、「愛媛県県立学校学習評価の手引き」等を参考に、評価規定の見直しを含めた観点別学習状況の評価方法の研究を進めていただきたい。資料としては「愛媛県県立学校学習評価の手引き」がESnetのポータルサイトからダウンロードできる。それから国立教育政策研究所の参考資料は、ホームページからもダウンロードできる。ご活用していただきたい。

#### 3 未履修問題について

平成18年度に本県県立高校において未履修問題が判明したことは非常に残念なことであったが、それ以降、各学校において、この問題を重く受け止め、教育課程の適切な実施に努めていただき、感謝している。今年度についても時間割表や教育課程表の提出による実施状況等や学校訪問研修時における確認によると、不適切な事例は確認されていない。今後も再発防止に向けて引き続き取り組んでいただきたい。

#### 4 個人情報の管理及び情報セキュリティ対策について

全国では依然としてUSBメモリの盗難紛失、不審メールによるウィルス感染事例が発生している。そのことから個人情報の管理及び情報セキュリティ対策について特に次の点について留意願います。

- ・ 個人情報等重要なデータは暗号化して保存すること。
- ・ メールやログイン時に使用するIDとパスワードは厳重に管理をすること。
- ・ 不審なメールは削除するか、あるいは確認をして対処するということ。安易に添付ファイルを開かない。
- ・ 業務と関係ないウェブ閲覧は行わない。

というようなことである。以上であるが、今後とも個人情報の漏洩防止、ウィルス感染防止には危機意識を持っていただき万全の対策を講じていただくようお願いする。

#### 5 教職員のICT活用指導力について

各学校ではICT活用による教育の質の向上等を目的とした校内研修の充実に積極的に取り組んでいただいている。今後とも全ての教職員がICT活用指導力を向上させ、生徒の生きる力、情報活用能力等を育む指導に努めていただきたい。ただし、ICTを使いさえすれば、よい授業、よい指導が即できるということではない。大切なのはやはり授業力である。この授業力にICT活用指導能力が加わると、これが鬼に金棒、非常に良い授業が展開できると考えている。あくまでも授業力があり、それにICTが加わることで授業の質の改善が図られるということである。

## 6 教育指導グループの事業について

たくさん事業があるが、そのうちの4点ほど紹介をする。

### (1) 「地域に生き地域とともに歩む高校生育成事業」

この事業は各学校が魅力ある学校づくりのプランを提案し実践することを通して、生徒の計画力、判断力、実践力、調整力、コミュニケーション力の育成を図るとともに、教員の主体的な取組、魅力的な学校づくりへの意識向上を図ることによって地域とともに歩む高等学校教育の一層の充実を図るものである。今年度、全ての学校からプロジェクトプランを提出していただいた。非常に労力を要する作業だったと思う。このことについて全ての学校に感謝を申し上げる。今後は書類審査を通過した学校が1月にプレゼンテーション審査会を行い、そして最終的に選出されるということになる。来年度プロジェクトプランを実践する学校については、またその実践校は、その取組の発表等もあると思うので、またそちらもご注目いただきたい。

### (2) 「高校生アクティブ・ラーニング推進事業」

この事業は次期学習指導要領の眼目であるアクティブ・ラーニングの研究に取り組むことにより、新しい時代に求められる生徒の学力を向上させることを目的としているもので、拠点校が10校、その10校には授業公開、先進校の視察、講演会などを行い、グループ校とともにアクティブ・ラーニングの在り方について研究実践をしていただいている。10月には研究指定校の大洲高校で学校訪問研修があり、県下からたくさんの先生方にご参加いただいた。3学期にも公開授業を予定している学校があるので、積極的に参加していただくとともに、全ての学校でアクティブ・ラーニングの取組を進めていただきたい。

### (3) 「ICT教育推進事業」

この事業は地元IT関連企業や大学等の参画を得てICT推進委員会を設置し、県立高校2校(松山商業高校と伊予高校)を、研究実践モデル校に指定し、タブレット端末と電子黒板を配備して、効果的な授業の実践研究を行っていただいている。さらに今年度は、今治西高校、松山東高校、大洲高校、宇和島南中等教育学校に、半年または1年間で学校によって違うが、タブレット端末を追加導入して本事業を拡充するとともに、ICT教育フェスタ、それから「T9+5」サミットを実施し、タブレット等の活用を促進している。また、小田高校ではアメリカのシリコンバレーとつないで遠隔授業を実施したり、南宇和高校では生徒のスマホを活用した授業の公開授業を行ったりするなど、特色ある取組が行われている。今後も21世紀にふさわしい愛媛の学校教育の実現に向けて各学校でICT教育に取り組んでいただきたい。

### (4) 「高校生おもしろ科学コンテスト」

これは平成19年度から実施している事業で、8人の生徒が1チームとなり、科学的な見方や考え、発想力などを問う問題で、数学、情報、理科の問題に取り組むものである。情報の本選の問題は、二つのスイッチを使って、七つのセグメントLEDに0から3の数字を、スイッチを使って表示するというのを競ったが、生徒たちは非常に真剣で楽しそうに取り組んでいた。本年度から部門別で、情報の問題で優秀な成績を収めた学校、そこに対して表彰する情報部会長賞を新設した。

今年は20校から715名91チームの参加を得た。来年度もたくさんの先生方、生徒の参加をお待ちしているのでよろしくお願いいたします。

#### 7 生徒指導の充実強化について

冬季休業中の生徒指導については先日通知し、お願いしているところであるが、何点か申し上げる。まず体罰について、これは学校教育法第11条において禁止されているものである。いかなる体罰、いかなる場合も体罰を行ってはならない。体罰は違法行為であるのみならず、生徒の心身に深刻な悪影響を与え、教員や学校への信頼を失墜させる行為である。特に生徒をたたく、小突く、突き飛ばすなどの行為はその強弱にかかわらず、決して認められるものではない。教師と生徒の間で信頼関係があれば少々のことは許されるという認識は誤りであるので、気を付けていただきたい。

次に、これは命を大切にす教育や教育相談体制の充実を通じて、生徒の自殺防止に取り組んできたところではあるが、より一層の充実を図っていただきたい。なお、悩みを抱える生徒については、実情を把握した上で、関係機関とも十分に連携を図りながら、内面に沿った支援を行うようお願いする。

次に、いじめ問題についてである。いじめはどの学校にも、どの生徒にも起こりうるという認識に立ち、いじめは絶対に許されない、いじめは卑怯な行為であるといったいじめ問題に対する全教職員の毅然とした態度を生徒に示すようお願いする。また指導等に当たってはクラス担任等の特定の教員で抱え込むことなく、学校全体で組織的に取り組むということで、必要に応じて関係機関との連携も適切に行う。

全ての県立学校において自転車通学時のヘルメット着用が義務付けられて1年半が経過している。引き続き生徒が自ら考え行動する交通安全教育の充実にも努めていただきたい。それからヘルメットについては、正しいかぶり方をしないと衝撃を受けた際に十分な着用効果が得られないので、着用はもちろんのこと、あご紐を正しく締めることも生徒に粘り強く指導するとともに、交通ルール違反、交通マナーを身に付けることも、粘り強く指導を行っていただき、交通事故防止の徹底を図っていただきたい。なお、学校管理下によらず、自転車乗車時は日頃からヘルメット着用をするよう併せてご指導の方をよろしくお願いいたします。

次にスマートフォン等の急速な普及に伴い、個人情報流出や、コミュニティサイト等に起因する性的被害、掲示板等への書き込みを起因とするトラブル等が発生している。情報モラル教育の推進をお願いする。

#### 8 主権者教育について

全ての教科等で生徒が有権者としての判断を適切に行うことができるよう学習を進めるようお願いする。現実の具体的な政治的事象を取り扱うことや、模擬選挙など、現実の政治を素材とした実践的な活動を積極的に行っていただきたい。

#### 9 奨学金について

各校においては、生徒が経済的な理由により進学等を断念することなく安心して学ぶことができるよう、日本学生支援機構など大学や専門学校向けの奨学金制度について、生徒や保護者に周知していただいているが、今後とも各団体から募集があれば、それごとに、奨学金を担当する課から該当する全てのホームルーム担任に連絡、ホームルーム担任から口頭あるいは掲示によって全生徒に周知したり、保護者に対しても面談等を通じて知らせたりするとともに、申請可能な奨学金の一覧をホームページに掲載するなどして、広く情報発信し、万全の周知を図っていただきたいと思う。それから現在、国においても給付型奨学金の創設に向けた検討がなされており、平成30年度から1学年2万人規模で月3万円を基準とした制度が実施される方向である。また、大学進学を目指す住民税非課税世帯の生徒を対象とした無利子型奨学金の募集が開始されるとともに、あるいは卒業後の収入により月々の返



済額が減らせる所得変動型の返済制度が導入されるとのことであり、国の動向を注視していただきたい。

以上9点連絡申し上げた。今日の会の中で何度も登場した二つの言葉、キーワードとして、プログラミングとアクティブ・ラーニングが挙げられる。プログラミングについては、その時はいずれやってくるので、その時に慌てなくてもいいように準備をしていただきたい。それからアクティブ・ラーニングについては、普段の授業を見直す機会、授業改善について、アクティブ・ラーニングの視点である主体的な学びや、対話的な学び、深い学びといった学びが実現できているかどうかということを取り返し、日々の授業の改善に努めていただきたい。そこにICTが加わると、更に質の向上が期待できるので、その研究もよろしくお願ひしたい。

本日は先生方のご協力によって、充実した会になったことを感謝申し上げる。この会で得られたことを参考に、愛媛の教育が更に充実することを祈念して、指導連絡とさせていただきます。

閉会挨拶（三崎高等学校 校長 近藤 実）

参加された皆様、長時間にわたる研修、お疲れ様でした。高校教育課指導主事白方先生、総合教育センター指導主事野村先生からは的確な御指導をいただき、ありがとうございました。また、発表された先生方、事務局の先生方に厚くお礼申し上げます。

本大会は、皆様の御尽力により、充実したものとなったと思う。どの研究発表もすばらしいものであった。特に、今治西高校の渡邊先生のプログラミング指導事例の発表は、今後のプログラミング指導を考えていく上で大変参考になった。また、南宇和高校の古田先生の発表は「高橋メソッド」を用いた発表で分かりやすく印象に残った。

今回、アクティブ・ラーニングが大きなテーマとなった。今年、全国高校長会の教育課程委員会に参加したとき、アクティブ・ラーニングの目的は、「能動的学習者」を育てることであり、そのために、「アウトプット」を大事にしなければならないとの話を聞いた。また、読書は「読む」と「書く」であり、読んだ後に「書く」というアウトプットが大切だという新聞投書を見た。参考にしてほしい。

今年度の情報部会関係の出来事として、高校生おもしろ科学コンテストでの情報部会長賞新規創設、10月に県庁で開催されたタブレット導入校意見交換会「T9+5サミット」、南宇和高校や伯方高校・弓削高校でのClassi（クラッシー）やスマホの教育活動への導入等があった。また、新年明けて、2月に校長・教頭研修会で、ICT CONNECT 21 会長 赤堀 侃司先生の講演「デジタルで教育は変わるか」が予定されている。今年度は、県教育委員会を中心に本県の教育情報化が加速度的に進展した年だったと思う。

しかしながら、教育の情報化を推進するためには、教育現場の実践や努力が大切である。そのための情報交換の場として高教研情報部会の重要性はますます高まっている。今後とも、情報教育や教科情報の活性化に向けて、情報部会を中心に取組をよろしくお願ひしたい。来る新年が良い年となることを祈念して閉会のあいさつとする。